

2014

夏が好き！本が好き！！



平成26年7月4日

秋草学園高等学校 図書館

2014年7月、夏本番となりました。今年の夏も先生方をお願いし、みなさんに夏の推薦本をたくさん紹介していただきました。先生の紹介文を読んでみると、普段はなかなか手に取らないジャンルの本にも「こういう本もおもしろそうだな。読んでみようかな」と興味が湧いてきます。推薦された色々な本を手にとって、読んでみてください。

先生方が紹介して下さった本は図書館に展示をしていますので（現在、購入中の本もあります）、たくさん本を借りに来てください。読み終わった際には、その本を紹介して下さった先生と楽しく語らいのひとときを過ごしてみてください。

図書館では、現在、夏の長期貸出を始めています！！冊数は**5冊まで**、返却日は**9月3日（水）**です。長期貸出を有効に活用して、いつも以上に読書を楽しんでください。

小久保校長先生のおすすめは…

① 374-ナ 『なぜ男女別学は子供を伸ばすのか』 中井俊己 著 学研パブリッシング

日本では少子化の影響で共学化する女子校が増えています。しかし、欧米では男女別学が男女の能力の開発に相応しいと考え、別学という教育環境や方法が見直されています。女子校で学ぶ皆さんにとって、男女別学の良さが少しでもわかっていると幸いです。

② 210.5-ミ 『江戸の大誤解』 水戸 計 著 彩図社

江戸開府から大政奉還までの260年間、長きにわたり平和な時代が続いたというのは、世界史を見渡しても稀なケースです。江戸時代は私にとってとても興味深い時代です。「江戸の大誤解」というタイトルに驚きもありますが、特に第三章「意外と進んでいた江戸時代」では、私達のお手本になる江戸の暮らしが書かれています。

是非、興味のある方は読んでください。

中村教頭先生のおすすめは…

986-マ 『世界一うつくしい昆虫図鑑』 クリストファー・マーレー 著 宝島社

私が若いころ、長野県にある山小屋のご主人から、人の本質・追い求めるものは、「美の探求である」とよく聞かされた。確かに会社になど入ると、新人の接遇研修などで、進化型の解釈であるが「メラビアン」の法則にしたがって行われるものがある。それはファーストインプレッションで、あるいは人は見た目ですぐに判断される割合が高いとするものである。だからこそ着こなしなどをしっかりしようとするものだ。

アンデルセンの童話に「醜いアヒルの子」がある。ディズニーの映画作品の中にもあるから誰でもご存知だと思う。これ従うと、前途のパラグラフとの対比を考えてほしい。

6月現在「マイマイガ」という蛾の幼虫が、ケヤキのきから落ちて君たちを驚かしている。ケムシなので一見すると気持ちが悪い。美しくはない。5歳の幼虫では毒はないのであるが、やはり気持ち悪い。そして彼らは10年に一度くらいのペースで大繁殖するらしい。「らしい」と書いたのは、人が気持ち悪がって薬を噴霧すると、私たち人間自身にも副作用などの危険性があるが、むしろ生態系を崩し、それを捕食するハチなどの昆虫を殺してしまい、10年のサイクルは崩れてしまう。そういう微妙な関係性を知りつつ、美しい昆虫も幼虫時代は結構グロテスクだったりすることもしりながら、見る図鑑。どうでしょう。

最後に「マイマイガ」という蛾は8月になると成虫としてひらひら森の中を舞う。その飛翔ぶりは美しくもあり、かわいいですぞ。

松田先生のおすすめは…

913.6-ナ 『きみはいい子』 中脇 初枝 著 ポプラ社

少し重い内容の短編ですが、虐待する親・虐待される子供の心情（内心）、そして近くでその子どもを見守る先生・友人の親・近所の人たちの愛情・優しさ・思いやりなど、辛くて悲しくせつない思いと人の温かさを感じ得ることができます。また、人との関わりが、生活するうえでいかに大切であるかが分かります。

浅見先生のおすすめは…

①188-コ 『しない生活』 小池 龍之介 著 幻冬舎

メールの返信がないと「嫌われているのでは」と不安になる人、「自分がいつも低く評価されたのでは…」と悩んでいる人に薦めます。

②323-ヒ 『十代のきみへ 一ぜひ読んでほしい憲法の本一』 日野原 重明 著

富山房インターナショナル

この頃、国会以外？で話題になっている「日本国憲法」、憲法の大切さをもう一度見直してください。

伊藤先生のおすすめは…

914.6-サ 『あなたに喜んでもらえるように ーいつも感謝の心で』 佐藤 初女 || 著
海竜社

「食べることは心の移しかえ」であるをテーマに、命を救う「おむすび」の講習会、講演会を続ける93歳の佐藤さん。

何人もの自殺志願者を救ってきたという「弘前イスキア」設立のお話や「食材の声を聞く」調理法など…、読めば心がほっとなごみます。

稲本先生のおすすめは…

①159-ミ 『人生はワンチャンス!』 水野 敬也/長沼 直樹 || 著 文響社

②159-ミ 『人生はニャンとかなる』 水野 敬也/長沼 直樹 || 著 文響社

ホッとしたとき、何だか泣きたいとき、もちろんハッピーな気分ときでもピッタリ合う本です。きっと、そのときのあなたによりそってくれたり、背中を押してくれる一言があるはず。一度ごらんあれ!!

今井勸先生のおすすめは…

①498-カ 『脳の強化書』 加藤 俊徳||著 あさ出版

脳には番地があり、それぞれを刺激するための具体的な方法が書いてあります。66あるトレーニングは簡単なものばかり。ぜひ読んでためしてみてください。

②376-フ 『東大に2回合格した医者が教える脳を一番効率よく使う勉強法』

福井 一成 || 著 KADOKAWA

多くの受験生から支持を受けている福井先生の最新刊。勉強を効率よく行うには、記憶を定着させるにはなど、医師の立場から受験脳の使い方を教えてくれます。

内田先生のおすすめは…

783-マ 『史上最速の甲子園 創部一年目の奇跡 創志学園野球部』 松永 多佳倫 || 著
メディアファクトリー

「これが甲子園を目指すチームのグラウンドか？」創部1年目のチームに集った28人を待っていたのは歴史も実績どころか、外野すらない、小さなグラウンドだった。

震災の影響で一度は中止になりかけた2011年春の甲子園にオール1年生で出場し、感動の選手宣誓で話題を呼んだ創志学園。

彼らはなぜ甲子園にいけたのか？創部からセンバツまでを追った青春ノンフィクション。

運動部でも文化部でも帰宅部でも、何かに熱中する人はカッコいい。そんなことを改めて思わせてくれる作品です。

大畠先生のおすすめは…

810-ヤ 『美人の日本語』 山下景子 || 著 幻冬舎

日本語の正しい話し方の本ではなく、365日1ページ毎に季節感ある言葉、夢や希望を与えてくれる言葉などが書いてあります。本を手にとった日の言葉を読んだり、自分の誕生日の言葉を読んだり何度でも読み返せる本です。

栗山先生のおすすめは…

913.6-イ 『For You』 五十嵐 貴久 || 著 祥伝社

最愛の祖母が急逝した。遺品整理で訪れた私は、祖母の古びた日記帳を見つける。そこには独身を貫いた祖母の青春が描かれていた。

思いっきり昭和の純愛ミステリーです。

夏に読むにはピッタリかも!?

菅原先生のおすすめは…

331-サ 『それをお金で買いますか 至上主義の限界』

この著者が流行したのは少し前ですが、まだまだ読んでおいた方が良いでしょう。

お金のことばかり考えていると、世の中にはこのような問題も起こってしまうようです。

難しく感じる人は、1日1ページでも良いので少しずつ読んでみましょう。

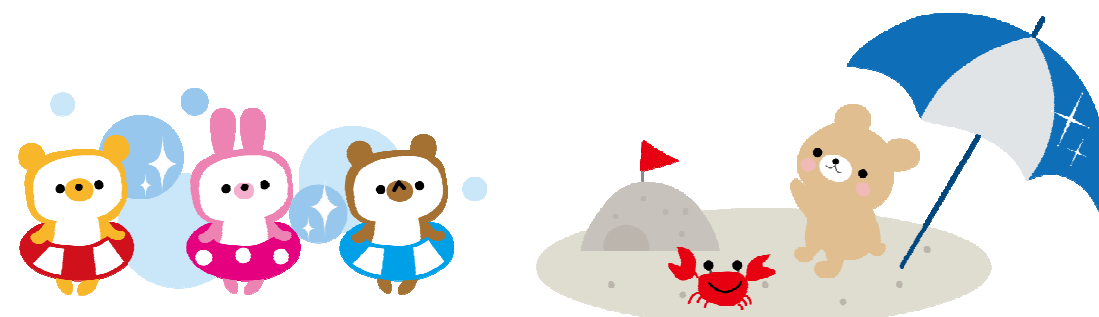
アメリカでの話ですが、日本にも十分当てはまるなあと思えます。

関先生のおすすめは…

210-ア 『世田谷代官が見た幕末の江戸』 安藤優一郎 || 著 角川書店

幕末。西郷隆盛と勝海舟による江戸城無血開城や上野寛永寺を拠点とした彰義隊などは良く知られるところですが、その時、江戸庶民はどうだったのだろうか？

この本には、その当時の庶民(ほとんどが農民だった時代の庶民)の様子が、興味深く紹介されています。また、江戸時代の農民支配のあり方も、よく分かります。カバンに入れてバスの中でも、電車の中でも読めるサイズですので、日本史に興味を持っている人にはおすすめです。



遠峯先生のおすすめは…

913.6-ミ 『舟を編む』 三浦 しをん || 著 光文社

辞書を作る人々をめぐる物語です。辞書ってこうやって作るのか…という面白さもあり。しかし、それ以上に主人公の「まじめさん」（まじめが名字です）が、言葉というものに正面から向き合い、辞書作りにのめりこむ姿が印象的です。

自分がすべてを捧げることができるものに出会い、それに取り組む中で大切なものを手に入れていく生き方は、とてもすばらしいなあと思われました。

ちなみに、「原作を読んでから映画を観る」という順番は崩したくない私ですが、これは先に映画を観てしまいました。やはり、映画の前に読むべきだったと後悔しましたが、映画もなかなかよいです。

利根川先生のおすすめは…

①019-ア 『本を読む本』 M.J.アドラー/C.V.ドーレン || 著

外山 滋比古/榎 未知子 || 訳 講談社

内容はなかなか難しいですが、第一部「読書の意味」あたりは読書好きには読んでもらいたいです。

②159-ウ 『もの食う人びと』 辺見 庸 || 著 角川書店

3年生の現代文で扱った「食と想像力」が収載されています。私はバングラデシュの「残飯を食らう」が衝撃的でした。「食」から人間について考えさせられる文章です。

長野先生のおすすめは…

335-サ 『日本でいちばん大切にしたい会社 1～4巻』 坂本 光司 || 著 あさ出版

会社にとって一番大切な人はだれでしょう。株主？出資者？それともお客様？——いいえ、それは社員とその家族です。

そんなことで企業の業績が上がるわけがない、と思うのがこれまでの企業経営の常識ですが、この本はその常識を見事に覆してくれます。

「就職難」「ブラック企業」「非正規雇用増大」など若者を取り巻く職場環境は、暗い話題が多いのですが、「こんな会社で働きたい」と思える出会いが、この本の中にはたくさんありますよ。



藤枝先生のおすすめは…

913.6-ヤ 『絶対泣かない』 山本 文緒 || 著 角川書店

生徒から教員へおすすめの本『Teachers Library』で知りました。

色んな職業の短編が入っていて、どの話も現実的で共感できるどころ、非現実的だけど、とにかくドキドキするようなところ、いろいろあっておもしろいです。

大人になって仕事をしている私をイメージするヒントに…ちょっとなるかも？

原口先生のおすすめは…

914.6-エ 『忘れがたい場所がある』 遠藤 周作 || 著 光文社

これからみんなが飛び立つ“海外”へのまなざしと、それとは逆に、“日本的”な美しさというものを、同時に気付かせてくれる、そんな作品です。

国際人として生きる第一歩目として。

短編エッセイ集。

本多先生のおすすめは…

913.6-コ 『夢からの脱走』 小松 左京 || 著 新潮社

戦場と平穏な日常生活、時間的にずれた2つの世界の間に生まれてしまった男の、重く逃れたい悪夢のような日々を描いた作品です。

短編小説のようなので読みやすいです。夏休みに小松左京の作品に触れてみてください。

丸山先生のおすすめは…

323-ヒ 『十代のきみたちへ 一ぜひ読んでほしい憲法の本』 日野原 重明 || 著

富山房インターナショナル

著者は102歳になる現役の医師、日野原重明さんです。最近の憲法改正の動きを懸念して、日野原さんが書いた本です。命を守る医師日野原さんは、『日本国憲法』を私たちの（国民の）「いのちを守る」憲法として大切にしています。医師として人の命にかかわる中で、学問としての憲法ではなく、憲法の中身（こころと表現）に長いこと関心を持ち、調べれば調べるほど「日本国憲法」のすばらしさを実感しています。事細かに条文を説明するのではなく、まさに「日本国憲法のこころ」を貴方たち若い人に伝えようとしています。わかりやすい文章で、さほど長くないのですぐに読めます。是非、一読し、「いのちを守る」日本国憲法を知って欲しいです。

*日本国憲法に関する著書を紹介します。

「日本国憲法」（小学館）・「あたらしい憲法のはなし」（永絵夢社出版局）ほか多数あり。

吉井先生のおすすめは…

914-タ 『二十歳の原点』 高野 悦子||著 新潮社

私が初めてこの本を手にとったのは、丁度現在の皆さんを同じくらいの年齢、17歳の高校2年生の時でした。当時の私は、自身が何のために高校に通っているのか、ひいては何に期待をして毎日生活しているのかを見失い、非常に鬱屈した気持ちで高校生活を送っておりました。そんな時、そんな自分を見かねた当時の担任の先生が私に紹介してくれたのがこの本でした。この本を読むことで、自身の矮小化^{わいしょうか}やそれに伴う人生の虚無感に苛まれているのは自分だけではないということがわかり、学校生活や日々の生活に対して少しだけ前向きになることができました。皆さんの中に、当時の自分と似たような気持ちを抱いている方がいるかは分かりませんが、この本を紹介したいと思いました。



鈴木司書のおすすめは…

B933-モ 『赤毛のアン』 モンゴメリ||著 村岡花子||訳 新潮社

NHKの連続テレビ小説「花子とアン」は『赤毛のアン』の翻訳者・村岡花子が主人公のドラマです。明治時代にハイカラなミッションスクールで給費奨学生として英語を学んだ山梨の田舎出身の貧しい少女が、教師になり、働きながら書き上げた童話で賞を取り、そして雑誌社の編集に転身し外国の児童文学を翻訳して日本に紹介するようになるまでが、今放送されています。花子は『赤毛のアン』を第二次世界大戦中に翻訳しました。戦争という暗い時代に、おしゃべりで明るく生き生きした女の子の話を翻訳することは花子にとってもきっと心のよりどころとなつたのではないのでしょうか。1952年に出版されて以来、小説や映画やアニメそれにミュージカルと色々な形を取りながら愛されてきたこの話を、この機会に読んでみませんか。カナダのプリンスエドワード島のアボンリーという美しい土地で暮らすアンが巻き起こす愉快的騒動と温かい人々の交流は、あなたを日本に居ながら異国の雰囲気浸らせてくれるはずです。

今井司書のおすすめは…

①290-タ 『僕らの人生を変えた世界一周』 TABIPPO||編 いろは出版

特別じゃない普通の人たちの世界1周。その旅の中で、それぞれが自分の未来を作るヒントを見つけている。世界に飛び出すって決意するのは簡単なことではない。けど、「自分にはできない」と決めつけてしまうことでもない。世界に飛び出してきた人たちの言葉は、どれもまっすぐで、心にスッと染みこんでいきます。自分のしてきた旅じゃないのに、涙がこぼれそうになったり、温かい気持ちで満たされたり、たくさんの感動が伝わってきます。広い世界を見てみたくなる本。知ってみたくなる本。

②913.6-ヨ 『パレード』 吉田 修一||著 幻冬舎

大学生の良介、無職の琴美、イラストレーターの未来、会社員の直輝。妙な縁で繋がって共同生活を送る4人の若者たち。各々がこの生活のゆるさと気ままさを気に入って暮らしている。そこにある日、18歳のサトルが加わり、少しずつ何かが変わっていく。みんなどこか少しずつ歪んでいて、それに気づいた途端、この楽しそうな暮らしに怖さも感じてきます。絆があるようで、自分勝手。自由そうで、窮屈。特に最後に待っていた真実には、かなりの衝撃を受けました。爽やかな読後感がないのに、ふとまた読みたくなって、何度も再読している本です。